

2014年度 3年 現代文 シラバス

指導者名 當山 博行 印 仲里 和恵 印

知念 志乃 印 翁長 良尚 印

砂川 華乃子 印

科目名	単位数	学年	学期	必修・選択	対象学科
現代文	3	3	全	必修	普通科

1. 概要及び目標

近代以降のさまざまな文章に触れ、日本の言語文化を享受し、現代の複雑な言語生活に適応できる認識力、思考力を伸ばし、個性豊かな人間として生きていくための国語の力を育成する。

2. 成績評価

成績の評価は下記の資料に基づいて総合的に行う。

(1) 定期テスト

- 学期ごとに中間考査・期末考査を実施する。但し、3学期は期末考査のみとする。
- 中間・期末考査は、授業内容を主とし、自主学習課題も範囲に加え、応用問題を含めて出題する。
- 実力テストも達成度をはかるための参考とする。

(2) 小テスト

- 授業の中で、適宜小テストを実施し、学習意欲の向上を図るとともに、学習習慣や学習姿勢も観察し、指導する。

(3) 提出物

- 授業の進度に応じた自宅学習課題の提出。
- 長期休業中の課題の提出。
- その他、意見文・ノート等の提出。

(4) 授業

- 授業への出席状況・主体的な学習姿勢を評価する。

3. 使用教科書・教材

- 教科書：「改訂版 現代文」 第一学習社（現文 064）Ⅱ部
- 副教材：「最新国語便覧」 浜島書店

4. 授業の展開と形態

- 普通科 10クラス 1～8組まで → 2クラス3展開
特進クラス 9、10組 → 一斉授業

5. 学習方法

- 授業は進度表に沿って行い、適宜課題や小テストを実施して学習内容の定着を図る。
- ノート・課題等を適宜提出させる。

6. その他（履修上の注意）

- 成績評価は、定期テストを重視するが、授業態度・提出物の状況が悪い生徒については厳しく対応する。必要に応じて保護者に通知する。

月	単 元	教 材	内容・留意点	配当時間
4月 ～ 5月		オリエンテーション	・準備すべきものや学習方法を理解する。	
	評論一	誘惑する情報	・より抽象度の高い文章の読み方に習熟し、筆者の視点や方法を的確に把握する。	
		私とは何か	・人間社会の根源にあるものは何か考える。	
	表現	意見文を書こう	・意見文を書くことの意義と手順を理解する	
5月	中間 考 査			
5月 ～ 6月	小説一	棒	・小説のさまざまなスタイルにふれ、読解力を高めるとともに、比喩・象徴・暗示などの表現に注意して、小説の主題を読みとる。	
		ウサギ	・主題についての考察を通して、現代社会を生きる自己のあり方を見つめ直す。	
	評論二	この村が日本で一番	・筆者の提示した問題を的確に把握し、抽象的概念を自己の問題として捉える力を養う。	
6月	期 末 考 査			
7月	評論二	「共生」とは何か	・環境問題についての理解を深め、自分なりに考えていく姿勢を養う。	
夏休み	課 題 （読書感想文・作文・創作文等）			
9月 ～ 10月	詩	足と心 冬の日 自然の背後に隠れ得居る	・近代詩・現代詩の鑑賞の仕方を深める。 ・近代詩・現代詩の中に織り込まれた、さまざまな世界認識の方法や枠組みを学ばせる。	
		表現	感想文・創作文の発表	・読み合い、批評し合うことで書く力を養う。
10月	中間 考 査			
10月 ～ 11月	評論三	身体の個別性	・文章の論理展開を把握して、筆者の主張を的確に読み取る。	
		目に見える制度と見えない制度	・自然で自明と思われているものが、実はある制度やしかけの中で意図的に作られていくものであることを認識させる。	
11月	期 末 考 査			
12月	小説二	舞姫	・古典的な名作を読み、文学のおもしろさを味わう。 ・文語文体を味わい、文体・修辞・語句の意味などを正確にとらえ、言語感覚を磨く。 ・登場人物の心情を的確にとらえ、時代と人間の関係について考えを深める。	
冬休み	課 題 等			
1月	評論四	天の自然詠・地の風景詠	・論理的な文章の構成、論の展開を正確に把握して、要旨を的確に理解する。	
		季語について	・短歌や俳句の独自の問題についての関心と理解を深める。	
1月	学 年 末 考 査			
2月	小説三	七番目の男	・小説の語りの枠組みについて意識し、より深く鑑賞する力を養う。	